

登録コード:MH144300 開講年度:2026		授業科目区分	専攻専門科目 必修
科目名	在宅看護方法論【20M～24M】 Home Care Nursing Methodology		
担当教員	小村 晃子 五十嵐 久人		
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	看護学専攻3年 前期 木曜・3時限 木曜・4時限		
単位数、講義室	2単位	保健学科211講義室 保健学科212講義室	遠隔授業科目
信大コンピテンシー	該当		
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素	⇔	授業の達成目標
	MH22カリ・保健, MH20カリ・保健		
	生命を尊び、人間についての幅広い知識を身に付け、対象を全人的に理解して、人々の健康を支援することができる。	⇔	病気や障害を持ちながら地域で暮らす方々を支援するために必要な知識や技術が理解できる
	保健・医療の専門職者として必要な感性を磨き、基本的知識・技術を獲得して、さまざまな状況で活用できる。	⇔	様々な状況で生活している方々のニーズと必要な支援を理解することができる
	保健・医療・福祉の現場において、専門職者として自己の責任を自覚し、チームの一員として協働活動に参加できる。	⇔	在宅ケアシステムの理解と多職種・多機関の機能や役割、連携の必要性、看護の役割を理解できる
	多くの学問分野に接して幅広い教養と探求的、創造的思考を身に付け、保健・医療の専門職者として必要な学修課題や目標を自ら設定し、常に課題の克服や目標達成に取り組むことができる。	⇔	対象を包括的にアセスメントし、支援課題を導き出し、支援の方向性を考えることができる
	MH23カリ・保健・看護		
	《基礎的・専門的な知識と技能》看護専門職者に必要な幅広い教養と基礎的・専門的な知識・技能を修得し、さまざまな状況で活用できる。	⇔	様々な状況で生活している方々のニーズと必要な支援を理解することができる
授業で学べる「テーマ」	《科学的探求力》変化し続ける社会で派生する多様な課題に対して、地域・国際的な視点から、科学的・倫理的・道徳的・創造的に課題に対応していく探究心と、課題克服や目標達成に向けて生涯をかけて取り組む力が身についている。	⇔	対象を包括的にアセスメントし、支援課題を導き出し、支援の方向性を考えることができる
	多文化協働、健康長寿、防災減災		
	全学横断特別教育プログラム		
	授業概要		
	疾病や障害を抱えながら地域で暮らす人々とその家族を支える看護に必要な知識と基本的な技術を学修します。在宅における日常生活支援や医療的ケアの知識や技術、さらに様々な状態別に対応した看護展開の視点やその方法、支援技術を事例検討を通して学修します。また演習を通して、療養者の生活する地域や、訪問看護における機器を活用したアセスメントの留意点などを学びます。 本授業は、2年次後期の在宅看護学概論で学習した内容を基に在宅看護の実践的な技術・知識を修得することを目指します。本授業での学びは、3年次後期の地域・在宅看護学実習で重要な内容です。 本授業は、担当教員の医療機関や訪問看護、行政等での看護師、保健師の実務経験を活かして講義を行います。		
	授業計画		
	第1回(4月9日)3限 地域で暮らす療養者の生活支援(食・排泄・清潔・移動) 第2回(4月9日)4限 在宅療養者への医療処置(薬物・ストマ・輸液・褥瘡) 第3回(4月23日)3限 地域アセスメント 第4回(4月23日)4限 【グループワーク】地区視診 第5回(5月7日)3限 【フィールドワーク】地区視診① 第6回(5月7日)4限 【フィールドワーク】地区視診② 第7回(5月14日)3限 【グループワーク】発表資料作成 第8回(5月14日)4限 地区視診 発表会 第9回(5月21日)3限 在宅移行期の支援 第10回(5月21日)4限 安定期/中途障害者への支援 第11回(5月28日)3限 神経難病の人への支援 第12回(5月28日)4限 医療的ケア児への支援 第13回(6月4日)3限 老々介護・認知症の人への支援 第14回(6月4日)4限 在宅看護によるエンドオブライフケア 第15回(6月11日)3限 【中間試験】 第16回(6月11日)4限 在宅酸素療法のしくみ 第17回(6月18日)3限 【演習】ポータブルエコーの活用①/看護課程の展開① 第18回(6月18日)4限 【演習】ポータブルエコーの活用②/看護課程の展開② 第19回(6月25日)3限 看護過程の展開 発表 第20回(6月25日)4限 在宅における看取りの実際 第21回(7月2日)3限 精神障害の人への在宅支援 第22回(7月2日)4限 在宅療養を支える臨床判断能力 第23回(7月30日)3限 在宅看護方法論 まとめ ＊授業アンケート 第24回(8月6日)3限 【期末試験】		
	授業の進め方		
	授業はスライドと配布資料に基づいて進めていきます。また、各自取り組んだ事前課題を		

授業の進め方	グループで共有したり、意見交換する時間も設けます。 在宅ケアに携わっている専門家等をゲストに招いて講義・演習も予定しています。 グループによる事例検討や機器を利用した演習などを通して、後期からの地域・在宅看護学実習を視野に入れて実践的に学習を進めます。
テキスト，教材，参考書	（教科書）石田千絵他：ナーシンググラフィカ 地域・在宅看護論（2） 在宅療養を支える技術 メディカ出版、2025（第3版） （参考書）：臺有佳他：ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論（1） 地域療養を支えるケア メディカ出版、2025（第8版 第1刷）※2年次概論の教科書 （教材）レジュメ（各授業時に配布予定） その他、随時紹介します。
成績評価の方法	課題の提出状況、講義後のレポート及び定期試験の結果に基づいて成績を評価します。 評価の配分は、提出物（レポート含む）30%、定期試験（中間50点・期末50点の計100点満点を70点に換算）70%の合計点で評価します。合計60点以上を合格とします。 定期試験では、講義・テキストで学習した内容、行動目標の理解度を確認します。
成績評価の基準	成績評価の判定基準は、以下の通りとします。 90－100%：秀、80－89%：優、70－79%：良、60－69%：可 これらの採点基準は達成目標に関連した設問の正誤、記述解答における用語の適切さ、範囲の広さや詳細さ、論理的であるか、誤字・脱字の有無、丁寧さ、提出期限などを指標とし、授業で説明した範囲における最低限の解答内容であれば「水準にある」、やや詳細な解答であれば「やや上にある」、十分詳細な解答であれば「かなり上にある」、自身で能動的に学習した詳細な解答であれば「卓越している」と判定します。
事前事後学習の内容	【事前学習について】 授業の終わりに、次回授業の事前学習課題を説明します。 【事後学習について】 授業の終わりに、授業内容について整理・確認すべき内容を提示します。 学習内容の整理と疑問等を明確にし、解消に向けて学習してください。 本授業の単位修得には、90時間の学習が必要であるため、以下のような学習時間を要します。 授業時間60時間（4時間×15回）＋自己学習時間30時間（2時間×15回）＝90時間 ※以上の自己学習時間を考慮して、事前・事後学習には意欲的に取り組んでください。
学生へのメッセージ並びに質問，相談への対応	・地域包括ケアの深化・地域共生社会推進の社会背景から、地域・在宅看護の学修は重要視されています。各領域の看護（基礎、成人、老年、小児、母性、精神、公衆衛生）と関連させながら学修するよう心掛けてください。 ・ゲストスピーカーによる講義を予定していますが、講師の都合で授業時間が変更になる可能性があります。 質問への対応：小村晃子 akomura@shinshu-u.ac.jp オフィスアワー：随時（事前要連絡） 研究室は保健学科中校舎3階